

会 議 録

1. 会議の名称

第2回 四條畷市文化財保存活用地域計画協議会

2. 開催日時

令和7年10月10日(金)午前10時00分～午前11時30分

3. 開催場所

四條畷市役所本館3階委員会室

4. 出席した者の氏名

菱田委員、野島委員、東委員、諫早委員、平岡委員、横山委員、北川委員、小宮委員、石塚委員
(委員9名、欠席：田伏委員)

大阪府教育庁文化財保護課 神谷総括主査

四條畷市総合政策部 豊留部長

四條畷市市民生活部 笹田部長(欠席)

四條畷市都市整備部 足立部長

四條畷市学校教育部 阪本部長

四條畷市社会教育部 西尾部長

四條畷市社会教育部文化財課 西岡課長、實盛課長代理兼主任、岡本主幹
報告書作成業務委託 株式会社フジヤマ 白鳥、中嶋

5. 議題

議事

- (1) 地域計画の目次について
- (2) 地域計画の序章と第1章について
- (3) 文化財関係団体アンケートについて
- (4) その他

6. 審議の内容

議事録のとおり

7. 担当課の名称

四條畷市社会教育部文化財課

議事録

岡本（司会）

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和 7 年度第 2 回四條畷市文化財保存活用地域計画協議会を開催いたします。

本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。本日の出席者数は 13 人で、四條畷市文化財保存活用地域計画協議会条例第 6 条第 2 項に規定しています。委員の半数を満たしていることをご報告します。

また本市の審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、本会議は公開とし、傍聴人は 0 人となっております。

開会にあたりまして、四條畷市教育委員会社会教育部西尾部長からご挨拶申し上げます。

西尾社会教育部長

それでは令和 7 年度第 2 回四條畷市文化財保存活用地域計画協議会を開催するにあたりまして、一応ご挨拶申し上げたいと思います。

平素は本市文化財行政にご協力賜り、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

本日の協議会では計画の目次について協議を行いその後、計画の序章及び第 1 章にも議論を進めたいと考えております。

皆様におかれましては、本市の実情に即した計画となるよう、どうか忌憚のないご意見を賜りますとともに、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、簡単でございますが、ご挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

岡本（司会）

ありがとうございました。続きまして、座りまして本日の事務局職員を紹介いたします。

西岡文化財課長でございます。

西岡（事務局）

西岡です。よろしくお願いいたします。

岡本（司会）

實盛文化財課長代理兼主任でございます。

實盛（事務局）

實盛です。よろしくお願いいたします

岡本（司会）

そして本日の司会を務めさせていただいております。私、文化財課主幹の岡本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

案件に入ります前に、ご参加いただきます、支援業者様のご紹介をいたします。事務局からお願いいたします。

事務局（實盛）

それでは、事務局の方から支援業者様、ご紹介いたします。

令和7年6月19日に1次審査、7月17日に実地審査といたしまして、四條畷市文化財保存活用地域計画策定支援業務委託の公募型プロポーザルを実施いたしました。

その結果、株式会社フジヤマ様を受託者とし、今回の会議より、ご参加いただいております。

フジヤマ様は、山梨県富士吉田市、埼玉県飯能市、静岡県小山町などで地域計画策定支援のご実績があり、本市でも、史跡飯盛城跡整備基本計画の策定について、ご支援いただいた実績があります。

よろしくお願いいたします。

岡本（司会）

それでは、これ以降の議事の進行につきましては、四條畷市文化財保存活用地域計画協議会条例第6条第1項に基づき、菱田会長に議長として、この後の議事をお願いしたいと思います。

菱田会長よろしくお願いいたします。

菱田会長

皆さんおはようございます。

今回が今年度2回目ですが3回目の会議ということで、いよいよ助走期間から中身に入ってきた感じになるかと思います。

また、今回は市内を歩かせていただいて、特に、個人的には校長先生のご厚意で、四條畷高校を見学させていただき、久しぶりの高校訪問になりまして、何か高校生の頃の自分を思い出したような、一文化をこれからもいろんな視点で見ていくという中で、市内の様々な文化遺産に、目を向けながら、計画ができればよいと思っております。

さて本題に入ると、議事の方に入らせていただきますが、まずは案件の1番の地域計画の目次について、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局（實盛）

（資料1の説明）

菱田会長

目次ですので骨格を示すという。

文化庁が示している指針に沿ってということなので、それほど大きく逸脱というか、違うものにはできないところはあると思いますが、ここまでの説明につきまして、ご質問やご意見ございましたら、お出しいただければと思いますが、いかがでしょうか。なじみのない言葉とかも出てきていると思いますので、そういった点から、聞いていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。おそらく、目次だけを見ていてもなかなか無味乾燥としてるので、質問がしにくいと思いますが。

今日この後は序章、1章の提案になっていたかと思います。

この中でかなり大事になってくるのは3章ですよね。これこそまさに、100の自治体があれば100通りの歴史文化の特性が描かれるわけで、そこに一番四條畷市らしさを込める必要があると思っております。目次案だけでは3章と書いてあるだけですが、見通しみたいなものがあれば、事務局から出していただいて。今後おそらく次回、次々回で議論していくことになると思いますが、その辺の議論の予告になる情報をいただければと思います。

事務局（實盛）

事務局の方といたしましては、今後歴史文化の特性を考えていく上で、本日、最後にアンケートの案をご提示させていただきます。アンケート、資料3を1度ご覧いただきたいんですが、1枚めくっていただきまして2ページ目のところで、質問項目の8番というのを設けております。

その8番で、市内外に発信したいと思う四條畷市の歴史文化は何ですかという問いかけをしています。その中で、こういった歴史文化が考えられるんじゃないかということできくつか挙げておりまして、実際のアンケートに入るにあたりもう少し増やしてご提示できるようにしたいと考えています。

現時点では、主なものを挙げています。実際のアンケートではもう少し詳しい項目や、細かい項目も含め、なるべく多く挙げ、皆さんにお聞きし、さらにその他具体的にあれば、自由記述もして欲しいという形で、なるべく多く、歴史文化の特性の抽出をしていきながら、今後の計画の3章の方に役立てていきたいと考えております。

以上です。

菱田会長

このアンケートで聞いていくとなっておりますが前段といいますか、委員の皆様からも、これが抜けてるんじゃないかとかいろいろご意見を賜って、アンケートの中に加えるか或いはアンケートの結果に加えてさらに、特質として上げていくか、というところになると思いますが、この辺はぜひ、心の準備をしておいていただけるとありがたいと思います。また後程のアンケートで議論になるかと思います。

目次を見ていく中で、おそらく1章2章にこれまでの、主要な総合計画ももちろんお持ちですから、そういったところとの齟齬などはあるかと思います。

あとは、5章も結構問題。これも他の市町村に倣えば同じような文言になるかもしれませんが、この文化財はどういう将来に繋がればいいのかという目標を掲げるところで自治体に

よる差というのが大きく出てくると思います。

この辺についても、それぞれの皆さんからご意見いただくとありますが、そのための基礎資料は出てきますか。

四條畷市の他の上位計画の中に例えば、歴史文化に触れられているか、その上位計画が目指している、将来像と文化財の将来像はある程度マッチングしないと、不自然なものになってしまう。そういった情報は、示していただく必要がある。今日この後議論する、序章以降で詳しく説明いただければと。

もう皆さんよろしいですか。

こういった点の議論、ここへ加えて欲しいというところも、この場で議論する必要があると思います。

後になりますが7章も、措置ですから、具体的に法定計画として進めていく本体になっていくものですので、順番に議論していくと1番最後になってしまい、議論の時間が大分少なくなることになるので、ここは早めに頭出しをし、将来の目標に向かってどのような措置を打つのかということを、早めに会議で示していただきたい。

意見のような形で申し上げてしまいましたが、この目次案、ざっと見たところで、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。これは府の大綱や、他の自治体の状況なんかと関わってくると思う。

目次案について何かご意見ありますでしょうか。

神谷委員

目次案に関しては、見なれたものが並んでいると思います。

おそらく、広域計画の中で示していただいている飯盛城の保存活用計画については大東市さんと、連携して作成されているかと思います。

地域計画についても、大東市の方が、一応先行して、作成されているかなと思いますので、そちらの方についても齟齬がないように、1度ご確認いただけるといいのかと考えたところです。

菱田会長

ご指摘ありがとうございます。

地域計画は自治体ごとに作るものではありますが、たまたまここは飯盛城が隣の大東市さんと跨って両市が一緒になって、史跡の保存活用に努めているという関係がありますので、そちらの状況と合わせる必要があります。

いかがでしょうか。

事務局（實盛）

大東市とは常に飯盛城の事業の進行について連携をとって進めております。

地域計画の状況についても、状況については、大東市の担当者の方とも話をしておりますので齟齬なく計画を作成できるよう進めて参ります。

菱田会長

他に、目次だけですけれども進めていく中でご指摘、ご注意いただくところありますでしょうか。

またお気づきの点がありましたら、目次についても、ご質問、ご意見いただくとします。続きまして案件の２番目の、地域計画の序章と第１章の審議に入っていきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局（實盛）
（資料２の説明）

菱田会長

具体的な文案というのが提示されていますので、どこからでも質問であれば或いはご意見で結構ですので、頂戴できればと思います。序章と１章で分けたほうがいいですね。

まず序章の方で、ご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。
特に、地域計画の位置付けは、市の様々な計画との関係が、図も示され文章になっていますが、これは挙げられてるものだけでよいのかについてご意見いただければと思います。

西尾委員

序章の３ページの図は、文化財保存活用地域計画の上に、教育大綱と教育振興基本計画の２つが枠で囲まれています。今、この２つの計画の内容を見直し中でつい最近固まったところです。

その上の第６次総合計画についても中身の見直しをしているところもありまして、先ほど会長の方からありましたが内容に齟齬がないようにというところにつきましては、最新の状況で、また確認をしていただけたらと思います。

事務局（實盛）

資料の作成段階で、未定の部分がありましたので、現時点の情報で作成しておりました。内容が固まった計画、修正されたものは総合計画の見直しを進めている部分につきましては、内容が固まった段階で、その次の会議でご説明しながら、今後この計画の作成で反映できるように進めていきたいと思います。

菱田会長

ありがとうございます。

反映させるというだけでなく、おそらくこの部分に、それぞれ策定してきた上位計画で、どのように歴史文化や文化財に必ず何か言及はあると思いますので、その部分は引用するなり、正確に文章を、ここに挙げておくことは必要になると思います。今ご紹介いただいた案が確定してきた段階で、そういった取り組みをお願いしたいです。

事務局（實盛）

おっしゃっていただいたような形で、教育大綱、教育振興基本計画を、次回の会議の際に内容、特に文化財に関わる部分の資料も含めまして、ご説明できる形で進めたいと思っています。総合計画については、次年度の初回の会議ぐらいで計画が固まり次第、ご説明する形で進めたいと思います。以上です。

菱田会長

他はいかがでしょうか。

大阪府の文化財保存活用大綱。聞いてもらってますけれども。

私自身策定に関わったのですが、府は大いに市町村の計画等を、支援するという中身になっていますので、府の支援に頼っていただければと思います。

計画との関係性も、ここでしっかりと踏まえておくことが重要だと思います。他にいかがでしょうか。

序章ですが、読んでいてわかりにくい点がありましたら、指摘いただければと思います。

足立委員

4 ページの文化財の定義なんですが、保護法で指定されているものと、地域が大切に守り継承してきたすべてのものとなっているのですが。

これは定義にならないのか、誰が判断するのか。「なわて遺産」に定義するというのですが、リストか何かを作る予定なのか。この辺が曖昧だとこの計画の対象がブレてくると思うため、もう少し絞ってもいいと思いますがいかがでしょうか。

事務局（實盛）

こちらの方ですが、この地域計画の作成の際には、文化庁の指針で、通常、文化財として、文化財保護法でとらえられているものはこの6 類型にはなります。

それ以外も包括した市の歴史文化、文化財に限らず歴史文化全体を計画として位置づけることが可能な形で、指針が作られております。今回、6 類型に限らずというところで、方向性を示せるようにこういった定義の書き方にしております。

今おっしゃっていただいたようなリストについて、第 2 章で四條畷市の文化財の概要を示す際に、指定等文化財に加え、未指定文化財を、本文の方では数だけですが、文化庁に提出する資料にはリストをつけることになっています。公開される資料というより、文化庁側の資料として、現時点でリストの作成を進めている状況です。

菱田会長

文化財の定義は、この計画に及ぶ範囲がどこまでかを示す上で大変大事な点になるところだと思います。今ご質問いただいた通りだと思います。

その辺、よろしいですか。

諫早委員

諫早です。私も少し気になったところがあって「地域が大切に守り継承してきた歴史文化に関わるすべてのものやこと」と言ってしまうと、文化財の6類型とは少し違うことになってないかなという。

どういふものを具体的に、第2章であげるかによって変わってくるかとは思いますが。範囲を決めるときに、文化財保護法の6類型に準じて未指定文化財も加えていく形にした方が「なわて遺産」を理解する上でもいいのかなと思いましたが、いかがでしょう。

事務局（實盛）

こちらにつきましては、リストの作成中の段階でもありますので、作成を進めながら定義はしっかりしたものをお出しできるように、再考して参りたいと考えます。

菱田会長

今のようなご意見を踏まえた上でまた、直していただければと思います。

先ほどもお話あったようにこの後、リストの中で未指定文化財が必ず出てくるので、ここには未指定の文化財という文言を出しておかないとまずいと思います。指定文化財の他に未指定文化財がたくさんあり、それらすべてが対象ですと。

それに加えてさらに後ろの中の計画次第で、特に市民の皆さんが「これは大事だ。文化財じゃないかもしれないけど何とか守って欲しい。」という思いがあれば、かなり特別な扱いで入ってくると思うので、まずはしっかり文化財の定義を出すのは、ここの役目だと思います。

一応専門的に言うと6類型プラス2になるので、埋蔵文化財は、地面の中にある、あらゆる文化財の存在形態を言うわけです。これは注で振っておいてもらわないと、埋蔵文化財が計画外にあると勘違いされるおそれがあります。あと、文化財の保存技術です。

我々の事業で話をするときは6類型プラス2というお話をするので、そのプラス2の部分は注でも入れていただけるとありがたいです。

事務局（實盛）

記述の方、書き加えいたします。

菱田会長

他にいかがでしょうか。

序章とはいえ、大事な計画そのものの根幹に関わる、定義の問題とかも入ってきますので、また改めて、今後見直しをするということでもいいわけですが、今お気づきの点が、ありましたら。

序章だけでなく第1章も含めて、ご質問、ご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。こんなに人口が減っているのかと、私はびっくりしましたけれども、この推計とか

も、本当にこうなっていくんですか。はいどうぞ。

平岡委員

四條畷高校校長平岡でございます。

1 章の 15 ページの、明治以降で四條畷中学校のことに言及いただいてありがたいんですけど。

このページの、5 行目でしょうか。「府立四條畷中学校が開校して市域は北河内の教育の中心地となりました」と、こう書いていただいて大変ありがたいんですけど。客観的に言えば、この中学校がポツンと四條畷にあっただけで、北河内地の中心というのは少し言い過ぎじゃないかと。

まず小学校は寝屋川にありますし、私自身は大阪市出身で、現在交野市民でニュートラルな立場ですが、四條畷高校の前任校は、大阪府立いちりつ高校の校長しておりました。大阪市立高校が枚方にあるその因縁はもうよくご存じだと思いますが、枚方市がずっと旧制中学校を作りたいと言っていました、大阪府はこれ以上、旧制中学校は四條畷にあるから作らないという戦前の協議があり、枚方市民が、旧制中学を作りたい、大阪府が単独で旧制中学を作りたいという思惑が合致して、枚方市の興善寺というところに、大阪市の中学校ができました。

ですから、やはり当時の北河内地の方々の認識として、中核市は枚方だったと思います。人口的な背景から言えばこう書いていただいてありがたいですし、もしかしたら四條畷高校の校史では、このような記述があるかもしれませんが、同窓会や、学校が幾らいうのは構わないと思いますが。

これは公文書、役所のお仕事なので、1 つの中学校があったから中心地というのは言い過ぎではないかなと思っています。さらっと書いていただいた方がいいのではないかなと思います。

今ちょうど四條畷高校の本館の外壁の塗装工事を行っておりまして、予算が 1 億 6000 万円です。外壁だけでそれぐらいかかりますので、本当に文化財の保存や維持は、とてもお金がかかると思いますので、今回のこの冊子をきちんとしたものにして、今後文化財を守り保存するのは言いすぎかもしれないですが、税金使って当たり前なんだっていう、そういう思いをいろんな方に持っていただく。そういう会議や資料になればいいと思っています。

差し出がましいですが、申し上げました。以上でございます。

事務局（實盛）

この記述につきましては、学校の資料や、展示の資料を中心に書いた経緯があるので、もう少し客観的な記述にしたいと思います。

菱田会長

どうしても卒業生の思いが入ると思うのですが、実は私ども茨木市史を扱ったときに、茨木が、三島の教育の中心であり、首都であると、同じ仲間の先生が、出身高校だったもので

すから思い切り書いていたというのがあります。

ここは抑えていきましょうとお願いしたい。「條」の字は、中学校の段階の時に人偏は入ってない？

事務局（實盛）

いや、人偏はついています。

平岡委員

ついて取れて戻った。

菱田会長

我々は取れた時代だった。わかりました。正確さと共に、表現の工夫が必要ということですね。いかがでしょうか。

西尾委員

市の概要のところですので、四條畷市の紹介と捉えられるところですが、市の中にいろんな計画がたくさんある中で、この市の概要というのは、計画の前半部分に出てくるものですので、他の計画と齟齬がないよう、確認をしていただきたいというところです。

また、計画は改定されていきますので、最新の情報を載せていただけたらと思います。具体的に言いますと 1-5 ページの下に交通網があって、その 2 行目、「放出駅で、J R 東西線に乗りかえると」ってあるのですが、「おおさか東線」だったかなと。

事務局（實盛）

そこは単純にミスです。

西尾委員

J R の正式名称は、いろいろあるので確認してください。

それと交通網で、四條畷の大事な交通網である 1 号線があり、第 2 京阪道路はかなり大事なところですが、その記載がない。

それから、次の 1-6 ページ。四條畷で観光レクリエーションといったら殆ど山のところになるのですが、大阪府の関係、後半部分に「大阪府民の森むろいけ園地」という表現があります。これがどの範囲かよくわからないのですが、そこに緑の文化園っていうのが、これ大阪府に花の文化園や、文化園地域は何ヶ所かあり、それは避けて通れないところだと思います。

それと、1-7、人口です。先ほど会長からお話がありましたが、2 行目で 65 歳以上の人口は増加傾向であるんですけども。次のページのグラフを見ると、真ん中の太い棒線を描いているところが今現在と思うんですが、65 歳以上、三角のついたところです。1 万 5149 から 1 万 4411、人口そのものが減っているんですね。令和 7 年は実数じゃなくて、人口ビ

ジョンの見込みだと思うんですが、実数を見ると減っている。高齢者が減ってきてるという段階に、ここ4、5年で入ってきた。四條畷は田舎のような感じがしますが高齢者が少ない。大阪府下の平均よりも下回っていますので、北河内では一番少ない状況になっています。この表現だと高齢化がどんどん進んでる町っていうイメージが出てしまう。

表現を改めたほうがいいと思います。

それと、1-9 ページ。産業のところですが、3行目に米の農業産出額を府下3位、野菜の農業産出額が府下1位とありますが、これは本当ですか。もう一度ソースを含めて確認をして、1人あたりかどうかわかりませんが。四條畷の状況を見ていると多分違うと思います。

あと、「楠木正行」というワードがあるのですが、その「木」があるなしに何かこだわりがあったかと思うのですが、その使い分けをどうしているのか。例えば1-13 ページの、鎌倉南北朝時代に楠木正行軍や、楠木正行のもとには「木」がついてます。他はわかりませんが、「木」が使われる関係を教えてもらいたいと思います。

事務局（實盛）

幾つかありましたが、ただいまの楠木正行については、個別でお答えします。それを含め、内容については資料のソース等をもう一度確認して、修正して参りたいと考えております。

楠木正行について、これは文献によっていろいろでして、太平記の記述は「木」がない。「楠」1字になっています。ただ、歴史的には「楠」と「木」の2字で表現するというのが今の形で、飯盛城跡の計画の方でも歴史学に沿った形で直すようにということで、直していただいた経緯があります。また、大阪府の方の楠木正行墓の史跡指定名につきましても、「楠木」2字、「木」の字が入っている記載になっております。指定名がそうであるということと、歴史学に沿った内容で、記述をするということで、今回の計画では事務局としては、「楠木」2字でいきたいと考えております。

北河委員

先ほど1-9の産業で、河内田原米が「大阪エコ農産物の認証をうけています」と書いてあるでしょう。これ、ごく一部の人がしか認定してないのに、みんなエコ米と思われたらいけないのでその辺表現を注意してほしい。

事務局（實盛）

表現を工夫していきたいと思います。

菱田会長

産業の部分になるとソースも難しいと思うのですが、こうやって庁内で連携が取れていますので、文章を部局でよく揉んでもらって、見てもらうようにしていただければと思います。なかなか文化財が苦手な部分と思いますので、確認よろしくをお願いします。

それから人口の推計も、ほとんどの自治体でこの計画を作っていくと、高齢者が増えているとかほぼ間違いないということになりますが、実際グラフと合わせてみると間違っている

というのが出てきますので、正確な表現を心がけていただければと思います。

他にいかがでしょうか。ここでもお気づきの点がありましたら、この際に出していただければと思います。

諫早委員

細かいところですが、古墳時代、12 ページです。

墓ノ堂古墳の表現で、「同時期としては北・中河内地域最大であり」まではいいと思うのですが、「摂津まで含めても」という一文に、南河内を含めるべきではないかと思います。古市にもっと大きい古墳があるのに、何か継体だけを見てしまって、先ほどの先生のお話に繋がってくるのかなというか。展示ではそういうふうに触れているかと思いますが。

もう1つが13 ページ目の「高野山への参詣のため、市域を南北に縦断する東高野街道が開かれました」という表現なんですが。正確にはわかっていないと思うのですが、東高野街道の前身の南海道や、何回も前身はあったかもしれないですが、「開かれた」としてしまうと、その瞬間に開道したと、すごく強い表現になってしまうので、そういう街道が昔あることは、書いた方がいいと思います。表現の仕方に工夫が要ると思いました。

事務局（實盛）

展示の解説から実際引用した部分がありましたので、客観的な記述を心がけて、修正して参りたいと思います。

菱田会長

おそらく次の歴史文化の特性を考えていくときにベースになってくると思います。

諫早さんからご指摘のあった通り南海道は本当に国を代表する大動脈が通っていたということになります。高野街道以前の話ですけど、南海道はぜひ入れておいて欲しいと思います。他にいかがでしょうか。

東委員

京都府立大の東です。

概要なので、どうということはないのですが、江戸時代以降の文章が非常に少ない気がするので江戸時代のところも、三好は大事ですが、三好以外は全部ほとんど幕府領だったということもありましたが、行政区画的な話を少し入れていただきたい。

あと特に戦後はほぼないため戦後も、何か入れていただいた方が繋がってますよということがあると思います。概要ですからそんなに必要ないと思いますが、読んでいて一番重要なところは文化財的にあると思いますが、全体の概要的に背景として入れていただくのがいいと思いました。

とても細かいのですが、1-3 の気候で、最も降水量少ないのは2 月なんです。グラフを見るとおそらく最小は2 月の16.5 ミリでした、となるんじゃないかと思います。

下のグラフを見るとそういう気がして。細かいですが。

菱田会長

人口といい、割とグラフと合わないというのは一目瞭然でばれてしまうので。

事務局

申し訳ありません。ミスしておりました、修正いたします。

江戸時代や戦後の記述ですが、おっしゃっていただいた通りで、不足してるものを江戸時代であれば三好の旗本の範囲以外の記述であるとか、戦後部分の歴史の流れの記述を加えて参りたいと思います。

菱田会長

これもおそらく次の歴史文化の特性に江戸から近代はすごく関わってくるところだと思いますので、また解説していただく必要があるかなと思います。

他にいかがでしょうか。野島さんは市史に関わって大変詳しく見ておられると思います。

野島委員

1-13で忍の陵と書いて忍陵神社と読ませているわけですが、この津杵神社とかのことが全然触れられてないということで、少し括弧書きでも。後ろの方では大將軍社は入れていただいているわけですが。馬守神社は、複雑になるかもしれませんが、そこら辺は特に岡山の地域の方々には、重要視されているのではないかと思います。

明記だけ検討していただければと思っております。

事務局（實盛）

おっしゃっていただいたところ、もともと津杵神社が式内社であって、大將軍社と馬守神社が合祀されて忍陵神社と明治44年に改称としているという歴史の流れに即したような表現にしたいと思います。

菱田会長

神社の歴史自身が、神名帳に出てくるものと、明治で改称したりしていくことを分け、両方あっていいと思いました。

特に神社は祭礼も含め、計画の中で重要な要素になってくるので、それぞれの神社の来歴はしっかりと触れておかないといけないと思います。

歴史的背景だからこの程度でいいということではなく、もう少し見直していただく必要あると思います。

他にいかがでしょうか。

また後になっても、手直しが必要になるころではありますが、今お気づきの点があれば、お出しいただければと思います。いかがでしょうか。

小学校や中学校の学区はすごく大事で、この計画を作っていくときに、うちの学区にはこ

んなものがあるよとか、そこは一応知っているとか、子どもの目線で見たときに、小学校や中学校の成り立ちや、現状の学区がどうであるというのは、どこかで俯瞰しておく必要があると思います。これは1章の中で、位置付けないといけないと思いますが、それはいかがでしょうか。

事務局（實盛）

入れるとすれば1章、学校の成り立ちを入れるのであれば、歴史的背景のところに、例えば災害履歴の項目の続きであるとか、項目を立てる形かと思います。

学区についてはまた確認させていただいて、学区を地図で示せるのか検討していきたいと思います。

菱田会長

もしご意見が難しければ例えば、立派な家なんかもそうですよ。頻繁に見直しをして変わり、線引がしにくいときもあります。この場合は、学区の境界線を引いた地図が出せるかどうか。

阪本委員

4年前、5年前に交付サインしてるので、先ほど、校長先生からお話がありましたけれども歴史的に書いていくのはしんどいと思います。

現状、こうなってます、というのであれば地図もあります。

菱田会長

何年何月、現時点での学区の線引きで、これは地域の人が使っていくときに、「うちの学区は」という目で見ると、学区の線引きがある方がすごくわかりやすいと思います。

今、小学校は何校ありますか。

事務局（實盛）、阪本委員

6校です。

菱田会長

それだけあれば、6つそれぞれの地区の先ほど地域性の話、野島さんからも出たと思いますが、各学区の歴史文化が見えるようになるのはすごく大事だと思います。

事務局（實盛）

調整の上、反映して参りたいと思います。

諫早委員

歴史的背景に入ると変だと思うので、文化施設の後の方がいいんじゃないですか。最新

の校区ですかね。

事務局（實盛）

学校の現状で大丈夫であれば、そちらの方に入れようかと思っており各校が開校して閉校した流れを入れるのであれば、歴史的背景の方にも必要と思いますが、いかがでしょうか。

菱田会長

6校を全部追いかけてというのは少し大変かもしれないですね。学区制が引かれた明治の段階で、第何区に第何小学校ができたとかいうようなことは、通常出てくるじゃないですか。市内で初めて置かれたというようなエポックは、歴史に入れていただければと思います。

事務局（實盛）

そうしましたら、基本は施設に現状の方を提示させてもらいます。
キーポイントとなる、例えば南野小学校ができたのが明治何年だとかを、明治以降の歴史の部分に入れる形でいきたいと思います。

菱田会長

おそらく、学校に残されている学校遺産も、文化財として評価しないといけなくなっていますので、近代に関わりのありそうな、小学校の歴史については歴史で入れていただくのが良いように思いました。

他にいかがでしょうか。

横山委員

学校のことで詳しいことは、あまりよくわかってないんですが。

学区のことで、逢坂という地域がありますよね。

あちらの地域の子どもたちは、かつては四條畷小学校の方へ山を下りてきていました。バス通がまだ許可されてないころは山を下山して、通っていた子もありますしその以前っていうのは田原の方の学区だったのですかね。逢坂が歴史的に、逢坂せんげんというふうに言われるところで、あそこの子どもたちが人口減少とともに、学区が大きく分かれてきた歴史的な背景も絡むと思います。その辺どのように、類型を分けていくかは専門家ではないのでわかりませんが、そういう部分もあっていいと思います。

菱田会長

おそらく四條畷市の歴史文化の大きな特徴は、この生駒山の山塊を挟んで東と西に両方及ぶという、大阪府下では極めて、希少な形態をしていて、途中にある逢坂っていう集落はどういうふうにできたかっていうのは、背景でどこまで触れられるかという問題がありますが、ぜひ触れていただいて、歴史文化の特性に関わってくるという認識は、必要であると思いますので、今のご意見もとりあえず入れていただければと思います。

事務局（實盛）

背景の書き方は現時点の把握が、我々もすべて及んでない部分があります。

今後の課題、方針措置も含めまして、歴史文化の特性にも反映する形で、逢坂は特異な地域ですので、増やしていきたいと思っています。

小宮委員

ガイドをしています、ガイドをしてるときによく聞かれることが、1つは四條畷というのはどういう成り立ちか。なぜ四條畷というんですかと。「畷」というのは、あぜ道という意味があるみたいですが。そのぐらいしか私は理解がなかったので、もし何か意味があるなら、書いていただくか教えていただければと思います。

それと、忍ヶ丘駅についても、四條畷駅がなぜ大東市にあって、そして忍ヶ丘の駅だけが、四條畷市の中にあるのか。

それから、四條畷神社からおりてくると駅のあたりで、四條畷市の中に大東市が含まれるような、境がありますが、そういったところがガイドをしているときによく聞かれます。この辺のいわれが何かありましたら、お願いしたいと思います。

菱田会長

そもそも論ですが、お答えいただきたいと思います。

事務局（實盛）

四條畷の成り立ちで、書くとなればもともとは四條畷の合戦が地名のもとになっています。四條という場所、条里制の四條のあたりにある縄手、あぜ道のところで合戦が行われました。あぜ道というのはおそらく東高野街道のことではないかといわれています。その四條畷と言われたところで、四條の畷で合戦があったってということで四條畷の合戦って名前がついて、明治時以降になり四條畷神社というのが作られ、周りに四條畷中学や、四條畷高校、郵便局、いろんな施設が四條畷の名前を付けていき、最終的に昭和6年の12月に、村の議会で、自治体の名前も四條畷にしようということで、昭和7年から四條畷村ができたという経緯があります。

そういった形で「四條畷」という自治体がなく、広域的な地名で四條畷駅を作るときには、四條畷の範囲が大体、四條畷の南の辺りから、大東市の北条ぐらいの辺りが昔は四條畷とみなされていました。当時の大東市の北条のあたりは四條村という村でしたので、その四條村の範囲に四條畷駅が作られています。後になって四條畷村の範囲にも、駅が欲しいという運動があり、岡山の地域に忍ヶ丘駅ができているということかと思います。

盛り込むとすれば、例えば歴史的背景の前段で四條畷という、地名の成立を入れようと、と思いますが、ここで入れる必要があるかどうかを歴史文化の特性なども考えながら、改めて考えて参りたいと思います。

菱田会長

市民の皆様からすれば、なぜ四條畷市と呼ぶのか必ず気になるところで、わかりやすい形で、この中にも書かれているといいと思います。

1-5 のページに四條畷村に改称しましたというのが本市の成り立ちであって、そこへ何にちなんでも入れてもいいのかもしれないし、工夫はしていただければ。その時の議会の、決定文とかもご覧なっていると思いますが、なぜ変えたのか一言あれば、大分わかりやすくなると思います。

他にいかがでしょうか。

野島委員

少し細かい話になりますが 1-15 の 10 番の災害履歴のところ。

城遺跡で生駒断層を確認しています。その通産省のサンガアキラさんと一緒に私の方で調査をさせていただいて、地震の断層を確認しているのですが、この文書では弥生時代から奈良時代と、奈良時代の須恵器が出てきた関係でそれより以前だというのはわかっていますので、幅を広くとっているのだと思います。通産省の方が C14 年代測定で出されているのが弥生時代と限定をされていますので、そうされた方がいいのではないのでしょうか。

事務局（實盛）

おっしゃっていただいた部分ですが、通産省の報告書の方では C14 の年代では 2000 何年か前の年代が出ていまして、その辺の書き方はそれより以前っていう書き方となっていたかと思います。

上限を考える意味で入れたのが奈良時代の史跡が出てるところで入れた形なんです。

もう 1 回、通産省の報告書を確認しながら、正しい書き方で記述して参りたいと思います。

菱田会長

災害でも書いていくことになるかと思いますが、文化財でわかっている災害が将来、防災に役に立つとも言われていますので、この辺の記述はしっかり書いていただければと思います。

他にいかがでしょうか。かなり皆様からご意見をいただいて、序章と 1 章は決まりきったことを書くような部分と思っておりましたが、まだまだ書き込むべきことがあることがよくわかりました。また手直しをして、次回以降提示をしていただくかと思いますが、それでよろしいでしょうか。

菱田会長

他に、ご意見がなければ次の 3 番の文化財関係団体アンケートに進みたいと思いますがよろしいでしょうか。

ではお願いいたします。

事務局（實盛）
（資料３の説明）

菱田会長

ありがとうございました。
アンケート案について、またご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

野島委員

平岡先生がおられる中で、聞いていいのかどうかわかりませんが、四條畷高等学校と示されてるところと四條畷高校、この場合だったら 10 番目のところとか、その前にもあったと思います。2ヶ所ほど四條畷高校になっていますので、統一した方がいいのではないのでしょうか。正式には高等学校だそうですね。

平岡委員

あまりこだわりませんが。

野島委員

同じ文章の中で、2種類の情報が出てくるのはまずいのではないのでしょうか。

事務局

作成時に、項目を挙げていくときに略した部分がありますので。

お聞きできればと思っています。アンケートでお聞きするときに、通常は正式名称でお聞きすると思いますが、アンケートのご回答者のことを考えたときに、略称で書いた方が答えやすいのではないかと。どちらの方がよろしいでしょうか。

平岡委員

正しいことには、こだわりません。アンケートの趣旨で判断していただきたいです。「なわ校」と略して頂いてもいいです。

事務局

そうしましたら、アンケートの中で別の表現にならないようにして、項目の文の長さも含め、判断させていただけたらと思います。

阪本委員

1番と2番なんですが、まず1番は「どちらかわからない」という答えはない方がいいと思います。1番の並び順もですが、何かこだわりがあるのかよくわからなくて上田原、下田原が離れていることなどが気になっています。

それと 4 番は語り部などもあるのでこの年齢構成にされてるという認識でいいんですよね。

あと 8 番ですが、我々も学校などでアンケートするときに、どうしても書いた順、列挙した順で上がってきってしまう場合があります。これは複数回答になってますが。前に書いてるものをそのまま書くこともあるので書き方や、複数該当ですが、選ぶ理由を書くことによって熱量が伝わると思いました。

具体的にどうしたらいいか、というのはないのですが 8 番が気になりました。

10 番については、一般的に 9 番で「はい」と答えた方にお伺いしますということですね。

事務局（實盛）

はい

阪本委員

了解です。

事務局（實盛）

地区の並びですが、こだわりがあったわけではなく、作成したときの資料の並びの通りになっています。おそらく 50 音順になっていて、探した住所の一覧が、郵便局の住所から郵便番号を探す一覧というのが 50 音順に並んでいたのもそういう並びになった。

地区の並びについては四條畷市史の地区、地図で出してるものから見て引用した関係で、地図上のおおよその並びになっているという経緯です。

情報の中で並びが違うと、お答えしにくい面もあると思いますのでその辺りは考えさせてもらいます。

年齢等はおっしゃっていただいた通りで、語り部の方も含めて、年齢構成と細かく見させていただいていく意味で 80 歳代以上、70 歳代以上でまとめられてしまうところを、あえて分けています。

次に文化財の興味のところですか。おっしゃっていただいたような選ぶ理由などは 1 度検討します。あまり自由記述が多すぎると集計の際に負担になるのと、お答えする方も負担になると思うので、少し考えさせてもらえばと思います。

菱田会長

他、いかがでしょうか。

西尾委員

私は 1 番と 2 番のところですが。

聞かれた側からすると「あなたのお住まいをお答えください」と「あなたのお住まいの地区をお答えください」の違いがよくわからないです。

1 番は住所、住居表示上の地区のことを言われているので、2 番は自治会のことを聞かれているのでしょうか。その辺の違いを明確にしたほうがいいと思います。

それから、そもそもこんなに細かく聞く必要があるかどうか。2 番が自治会のことを聞かれているのであれば、西中野と中野本町は同じ自治会のはずです。

それから田原台の 1 丁目から 9 丁目はそれぞれ町名によって自治会が分かれています。その辺どういうふうに、分けるかを考えていただけたらと思います。

それから 6 番の質問ですが、「四條畷市に愛着ありますか」と言うのは、聞く対象がサポートの方々なので愛着があつてこそそういう仕事されてるかと思います。

あとは答えをそれぞれのところに、番号をつけておくと後の集計がしやすくなると思います。

聞き方はペーパーで聞くのですか。今はインターネットを使ったりとかできると思うのですが。

それによっては集計する際に番号がある方が楽なのではないかと思います。

事務局（實盛）

お住まいとお住まいの地区については、おっしゃっていただいたようにわかりやすい形でさせていただきたいのと、西中野と中野本町は一緒に自治会でまとめさせてもらいます。迷っていたのは田原台の 1 丁目から 9 丁目であるとか、パークヒルズくすのき坂とくすのき中央は別の自治会なんです。

今回は分けて集計するとはあまり考えていなくて、項目減らすためにまとめさせていただいたという経緯がありまして、その辺り検討して参りたいと思います。

それから、回答に番号つけて集計しやすいようにというのは、やっていきたいと思っています。回答については、説明の中で申し上げたような形で、QR コードを掲げておいて、市のフォーム等活用して、電子でお答えいただける方は、電子でお答えいただいて、郵送にて紙でお答えしたい方は、紙でも回答できるように併用するという方針で進めたいです。

阪本委員

説明があつたと思うのですがそもそも 2 番を聞くのは何故ですか。

事務局（實盛）

2 番が聞きたい本命の質問になります。ただ、自治会のみ入れたときに自治会に入っていない方とか、四條畷市に来てすぐで、自治会の範囲の意識があまりない方がいらっしてもいいように、最初に住所を聞いておくことで、自治体がわからないときに住所がお答えいただける方でしたら、補完できるということで、お聞きしました。

阪本委員

であれば、アンケートをする方の認識の中で、住所も地区も答えないといけないときに、住所を答えていたら地区がわかるのではと心配をしました。

事務局（實盛）

一見するとおっしゃっていただいたように受け取られると思うのですが、住所の1番のネックが南野でして、南野は細かく地区が分かれています。それぞれの地区によってだんじりも文化も違ってきます。ただ、住所でお聞きすると南野1丁目から6丁目まで全部、南野になってしまいます。南野だけ何丁目まで聞くとすると、項目が立てにくいので、両方お聞きできないかと、アンケートにさせてもらった形です。

菱田会長

アンケート答える立場の方もいらっしゃると思いますが、いかがですか。

特に1番2番、くどいのではないかという意見が出ていますが。

阪本委員

南野（〇〇地区）という質問にしたらどうでしょう。

回答の意図が違っていたらごめんなさい。

菱田会長

うまく1つの設問で聞ければ1番いいのですが。四條畷市の自治会事情によると思いますが、どう聞けば各自治会名が出てくるのでしょうか。

阪本委員

2番が重要であれば、2番を1番にして、「あなたの地区をお答えください。地区がわからない場合はご住所をお書きください。」と聞くのはいかがでしょう。

菱田会長

私もそれがいいと思ったのですがいかがでしょう。

質問はシンプルな方がよく、仕入れた情報がしっかり把握できる方向で、工夫していただければと思います。

事務局（實盛）

おっしゃっていただいたような形ならばうまく導入できそうです。お答えわからない場合だけ住所をお答えする形であれば、いけると思います。その形で対応したいと思います。ありがとうございます。

菱田会長

私から1点。2ページ目の冒頭「茅葺屋根や煙出しがある古民家」ですが、茅葺屋根でなくて煙出しもない古民家はどうしますか。むしろ町屋とかだとそちらの方が多いです。町屋再生とかで、結構リノベしたお店が一般的には多いと思いますが、そういったところを選べ

ないというのは少し心配です。

事務局（實盛）

市内の状況で、農家さんが多いところで書いていた部分があるので表現を工夫したいと思います。

菱田会長

他にいかがでしょうか。

アンケートはいつ頃実施する予定ですか。

事務局（實盛）

11 月中にお答えいただくような形で進めたいと思っています。

菱田会長

ある意味、今日は最終チェックだと思いますので、お気づきであれば今の間に出していただければと思います。

いかがでしょうか。

小宮委員

すみません、私は「ゆずりは」の団体に所属しているのですが。

団体の場合は、会長が確認しますよね。例えば、私が学校の歴史的な建物に行ったとします。しかし会長は行っていない場合、10 番の具体的にどこへ行ったかの質問は、「ゆずりは」という団体からしたら項目のほとんど全部に行っていることになりませんか。

事務局（實盛）

団体さんにつきましては、ご協力にお願いにあがりまして、会員さん皆様にお答えいただけるように、質問用紙はこちらの方でご送付させてもらえようようにご相談できればと思っています。

小宮委員

では人数分のアンケート用紙が団体に送付されるということですね。

菱田会長

アンケートは数が多くないと意味をなさないので、できる限り関係している皆さんにお答えいただければと思います。

よろしくお願いします。

横山委員

会員に書いていただくのはとてもいいと思いますが、アンケートの集計は会員の方でしょうか、そちらでやっていただくのでしょうか。

事務局（實盛）

これからお願いに上がる部分ですが、ご住所だけ教えていただければありがたく、ご送付もこちらでさせてもらい、回答はインターネットを使える方はインターネットでも回答いただけます。紙でご回答する方は、返信用封筒も入れさせていただき、こちらの方で集計や回収等はすべてできるようにしたいと考えています。

菱田会長

実際にお答えいただく立場に立って、懸念される点を聞いていただいたと思います。

結果をまたこの会に出していただいて、今度の 3 章で、歴史文化の特性を考えていく上で、参照していくことになると思います。

なので、かなり具体的に書いて頂いた方がありがたいと思いますので、さっき野島さんのおっしゃった地域バランスを考えるとという点で、うちの地区の 1 つも出てこないというようなことになると、この計画がなかなか浸透しないことになっていくので、地域バランスを配慮していくために、お住まいの地区を聞いていくのはすごく大事だと思います。

諫早委員

文化財関係団体のどれに所属してるのか、なぜ団体に入ったのかというのは聞いていた方がいいのではないかと思います。地区と地区以上に限定されますよね。広く市民にというものでもないと思うので、そういう項目の記述をしてもらった方が、わかりやすいと思います。

事務局（實盛）

そうしましたら 5 番のご所属の団体名お答えいただくところに、自由記述で、可能であれば理由もお答えいただければという形で質問してみます。

菱田会長

取り組まれている理由がない人もいると思いますが、変えていただけると良いですね。

いかがでしょう。アンケートについても、事務局から確認したい部分は聞き終わり、次に進めそうということでよろしいですか。

では今日の案件 1 から 3 についてたくさん皆さんからご意見いただけて、大変充実した意見交換になったと思います。

4 番にその他がありますが、事務局からよろしくお願いします。

事務局（實盛）

事務局から、今後のスケジュールで 1 点ご報告があります。

今年度の文化庁協議の日程が決まっておりますのでお伝えいたします。11 月 6 日木曜日

に文化庁の京都庁舎に、事務局が文化庁協議に行って参ります。

次回の本協議会、1月の協議会で、文化庁との協議内容については共有できるようにしたいと考えております。

菱田会長

ありがとうございました。

今回は大体いつになるかの目途はあるのでしょうか。

事務局（實盛）

回次の日程は、1月30日を予定しておりますので皆様よろしく申し上げます。

菱田会長

その他何かこの場で確認しておくことございますでしょうか。

なければ大阪府からお越しの神谷委員から何かあればお願いします。

神谷委員

ありがとうございます。

実は今日初めてきちんと読ませていただきました。

文化庁協議が11月6日ということで、私が行かなくても大丈夫ですか。予定が入っているものでまた調整させていただければと思います。

アンケートについて議論を活発にさせていただけたと思っております。アンケートをいただく対象の方が、文化財に興味を持たれている方ということになると思うのですが、他の市を見ていると、どちらかというと小学生、中学生に向けて文化財に、無垢な方に認知度を聞くアンケートをされることも多くあります。まずは、文化財に興味のある方に聞いて、その他の方にアンケートを実施する予定なのか、このままいくのでしょうか。

質問になってしまいますが考えただければと思っております。

事務局（實盛）

例えば小学生中学生であるとか、そういったアンケートの検討はしていたのですが、今年度は他の総合計画のアンケートを実施されている経緯もありまして、アンケートばかりになってしまうと生徒さん、児童さんへの負担感もあるので、ご相談等もできていない状況にあります。今後の進行も踏まえながら、次年度以降になるかもしれませんがまた考えて参りたいと思います。

神谷委員

ありがとうございます。私からは以上です。

菱田会長

ありがとうございました。

大阪府の保存活用大綱の中にもたくさん子どもたちという言葉が出てきていて、未来へどうやって文化財を受け継いでいくか、子どもたちの心に伝えていくという、大変大きな目標にしていたということですのでよろしいですね。

それもあって、子どもたちへのアンケートも大変重要なツールになるということは、おっしゃる通りだと思います。またどの学年をねらっていくかというのはなかなか難しいですが。できればあまりまだ擦れてなくて、地域のことに関心を持って、祭りに参加し始めてるぐらいの子たちが、一番いいと思います。計画を今後進めていく中で、計画前と計画がある程度進んだ後で、色々と数値も変わったというような、比較の材料にもなりますので、簡単なアンケートでもいいですが、取っていただければと思います。

今日、議論すべき中身は、議論できたのではないかと思います。予定の時間超過してしましまして申し訳ありませんでした。司会を事務局にお返しいたします。

西尾社会教育部長

本日はお忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございました。本日の会議により、計画の目次及び序章第 1 章等のご審議の方いただくことができました。今後もこの協議会のご意見やご助言の方、生かして事業を進めて参りますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

最後 1 点だけ、お知らせなのですが、お配りさせてもらった冊子で、「暗雲の彼方に光あり」という形で、現在本市の歴史民俗資料館で、特別展を 10 月 7 日からもうすでに始まっているのですが、12 月 14 日まで、この会館 40 周年記念の第 40 回の特別展という形で開催をいたしておりますので、近くの方に来ることがあれば、どうぞ一度ご覧になっていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

岡本（司会）

最後、委員の皆様方、本日は長時間にわたりご清聴いただきましてありがとうございました。先ほど少し触れましたが次回の協議会が、令和 8 年 1 月 30 日金曜日の 14 時からお昼からの開催となります。そして、会場が東別館の 2 階、こちら本館ですので、また別の東別館に変更になります。1 月以降、改めまして開催通知文書をお送りいたします。

なお令和 8 年度の会議予定ですが、次回の協議会で調整できればというふうに考えております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

これもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。